

資料3

第33回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会
2013年3月3日

生態系モニタリング専門委員会 活動報告

【活動報告】

- 前回協議会(平成24年9月29日)以降、いずれも管理目標WGと合同で2回の会議を開催し、モニタリングに関する検討を行いました。
- 第23回(11月12日)の会議では、「モニタリング調査結果」を確認し「今後のテーマ調査」を検討しました。
 - ①ハンノキ育成試験地②でつる性植物がハンノキの成長を阻害していることを確認し、管理目標WGと合同で12月6日にその除去を行いました。
- 第24回(2月15日)の会議では、テーマ調査を含めた次年度のモニタリング計画を作成しました。
 - ①今年度のモニタリングが予定通り実施されたことを確認しました。(次ページおよび参考を参照)
 - ②次年度のモニタリング計画(案)を作成しました。(資料6参照)

【合同会議の開催】 上尾市文化センター
第23回 平成24年11月12日 9:30~11:30
第24回 平成25年2月15日 9:30~11:30

会議



委員によるハンノキ育成試験地②でのつる性草本除去
平成24年12月6日



【前回協議会以降の主なモニタリング結果】

- 上池旧流路（当面の整備対象範囲）で水位低下後の10月に植物相調査を実施し、オナモミが過年度と同様に確認されました。
⇒ H23には乾燥化による減少が懸念されましたが、H24.5月の出水で本川水の流入があり、9月に水が干上がると共に一斉に生育して結実しました。
- 下池河畔林移植地に移植した33個体のうち、29個体は生育良好でした。5月から11月まで数10cm程度成長しました。
- アカガエル類の産卵については、2月末の調査では確認されませんでした。

【上池旧流路】 確認されたオナモミ



【下池河畔林移植地】 順調に成長しているハンノキ



アカガエル類の産卵調査



アカガエル類が産卵に利用できそうな水辺（池や水路、水田等）を調査しましたが、産卵は確認されませんでした。

参考

【目次】

1. 平成24年度のモニタリング調査の実施状況	5
2. モニタリング調査結果の概要	6
3. 基礎的な調査	8
4. 太郎右衛門地区全体の調査	9
5. 自然再生事業の実施計画に関わる調査	11

※重要種の確認位置は、種の保護の観点から示していません。
(生態系モニタリング専門委員会では確認しています)

1. 平成24年度のモニタリング調査の実施状況

● 調査範囲は図の通りです。



基礎的な調査	水位・地下水位計設置地点	●
	水質調査地点	●
太郎右衛門地区全体の調査		- - -
自然再生事業の実施計画に関わる調査	当面の整備対象範囲	○
	試験施工地	□
	整備地	○

自然再生事業の実施計画範囲 

2. モニタリング調査結果の概要

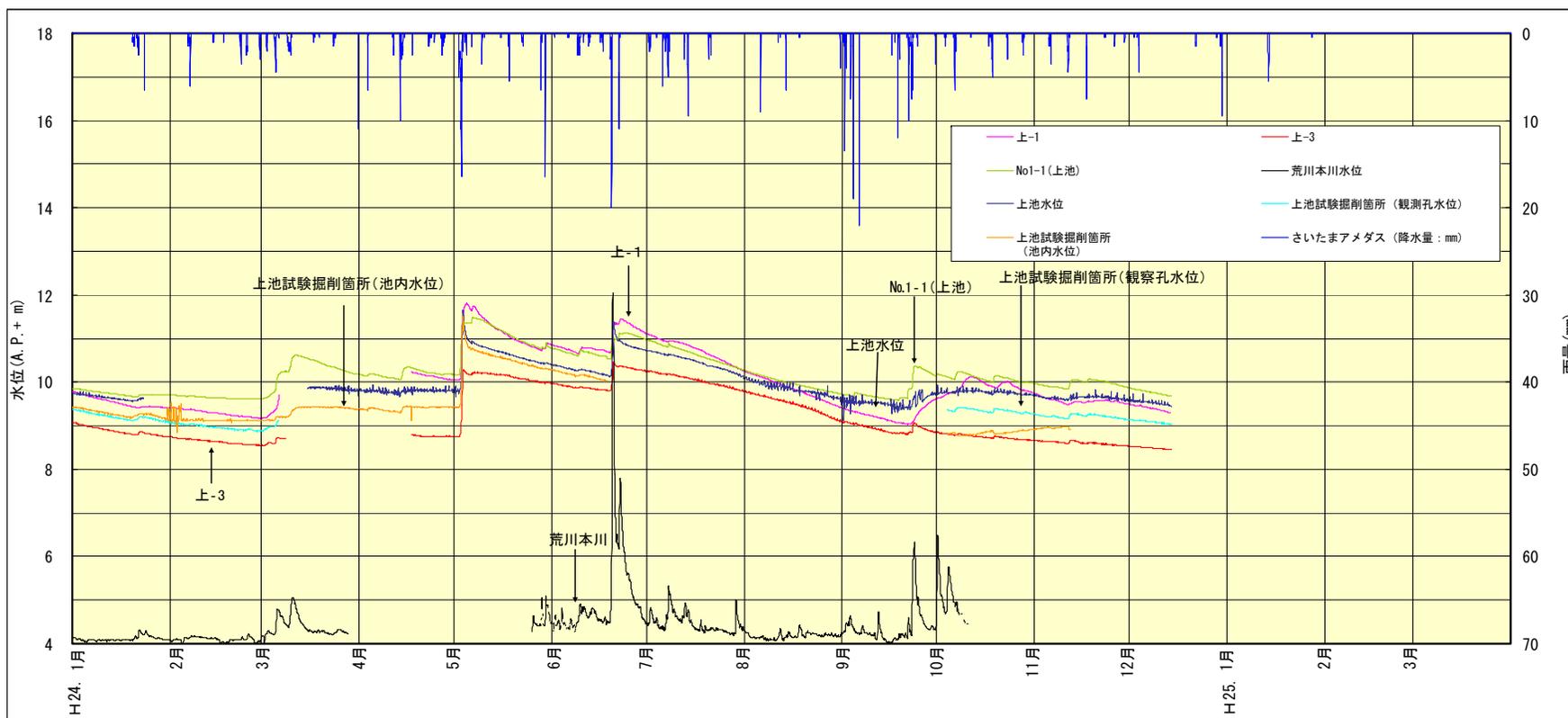
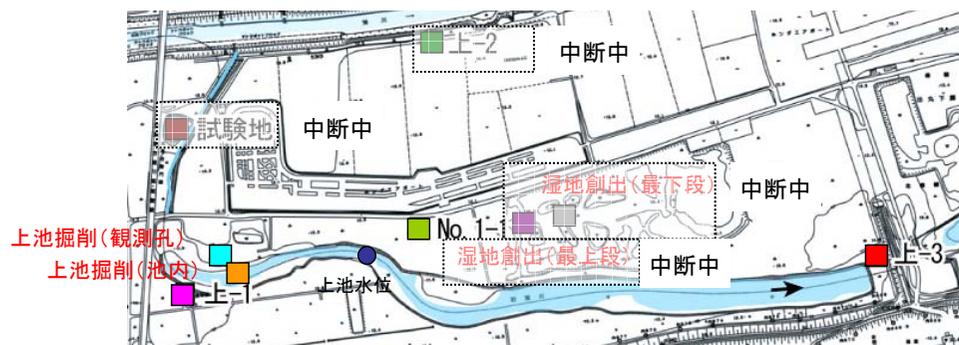
項目		資料P	結果の概要	評価		
基礎的な調査	旧流路・全域	水位 地下水位	8	<ul style="list-style-type: none"> ●上池試験掘削地の水位と地下水位は連動しています。 ●上池試験掘削地の水位は、4月はわずかに形成されているのみでしたが、5月以降は安定しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月以降は地下水位は高い位置に保たれ、呑口整備の効果が確認されています。 	
	旧流路	水質	(略)	<ul style="list-style-type: none"> ●各池ともCOD10mg/L前後で、中池は上池・下池より低いレベルでした。 ●上池・下池は夏季にD0が5mg/Lを下回ることが多かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清澄とは言えませんが、生物の生息には問題無いレベルでした。 	
太郎右衛門地区全体の調査	生物	鳥類	9-10	<ul style="list-style-type: none"> ●旧流路内ではカイツブリやサギ類などの水辺の鳥類、オギなどの草地では、ヒバリなどの草地の鳥類、樹林地ではコゲラなどの樹林の鳥類が確認されています。 ●「目標種」ではウグイスとベニマシコが確認されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標種の生息は少なく、自然再生事業の必要性が再確認されました。 	
		両生類	(略)	●アカガエル類の産卵は確認されませんでした。		
		昆虫類	(略)	<ul style="list-style-type: none"> ●旧流路内ではギンヤンマなどの水辺の昆虫、オギなどの草地ではコバネヒメギスなどの草地の昆虫、樹林地ミドリシジミなどの樹林の昆虫が確認されています。 ●「目標種」ではミドリシジミが確認されています。 		
自然再生事業の実施計画に関わる調査	上池旧流路(当面の整備対象範囲)	植物	(略)	<ul style="list-style-type: none"> ●エキサイゼリとオナモミが過年度と同様に確認されています。H23Iには乾燥化による減少が懸念されましたが、回復傾向が見られ、出水による水の流入の効果と推測されます。 ●整備予定範囲には留意すべき重要種は確認されていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で配慮すべき事項は保全・今後の整備のいずれも特に無いことが確認されました。 ・植物、鳥類、魚類とも目標種が早期に入ってくることが確認されました。 ・上池旧流路整備地は冬季に干上がり、魚類の安定した生息は難しい状態でした。 	
	上池旧流路整備地	植物	11	●「 目標種 」では エキサイゼリとタコノアシが確認 されています。		
		鳥類	(略)	<ul style="list-style-type: none"> ●水辺の鳥類ではカルガモ、オギ・ヨシの草地で繁殖するオオヨシキリ、草地を利用するセッカ、ホオジロ、ヒバリやツバメが確認されています。 ●「目標種」は確認されていません。 		
		魚類	12	<ul style="list-style-type: none"> ●コイ、モツゴ、ナマズ、ヨシノボリ属は幼魚が確認され、整備地または隣接地で産卵・ふ化したと推測されます。 ●「目標種」ではギンブナとナマズが確認されています。 		
		両生類	(略)	未実施		
	上池モトクロス場跡地整備地	植物	(略)	●跡地A整備地で「 目標種 」では エキサイゼリが確認 されています。		
		鳥類	13	<ul style="list-style-type: none"> ●河原で繁殖するコチドリやオギ・ヨシの草地で繁殖するオオヨシキリ、草地を利用するヒバリやツバメが確認されています。 ●「目標種」ではベニマシコが確認されています。 		
		両生類	(略)	未実施		
	ハンノキ育成試験地	ミドリシジミ	14	試験地②で3個体が確認されました。試験地③での確認はありませんでした。		<ul style="list-style-type: none"> ・移植したハンノキ林にもミドリシジミが飛来することが確認されました。
		ハンノキ	(略)	●密度を高く植えた場所で枯死が目立ちました。		<ul style="list-style-type: none"> ・移植時の密度による生存率の差が確認されました。
下池ハンノキ移植地	ハンノキ 每木	15	● 33個体のうち、29個体は生育良好 で、2個体が不良、2個体が枯死でした。	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね良好に生育していることが確認されました。 		

3. 基礎的な調査

●水位・地下水位

地下水:上池

H24年



4. 太郎右衛門地区全体の調査

●鳥類 (夏季)

- 旧流路内ではカイツブリやサギ類などの水辺の鳥類が確認されています。
 - オギやセイタカアワダチソウなどの草地では、ヒバリやムクドリなどの草地の鳥類が確認されています。
 - クヌギ・エノキ林やハンノキ林ではコゲラやガビチョウ(特定外来生物)などの樹林の鳥類が確認されています。
- ⇒ 全体構想の「目標種」ではウグイスが広く確認されています。

H24.6の結果		目標種	重要種	外来生物法	上池	中池	下池	下池	上池	中池	下池	上池	中池	下池	上池	下池	中池
科名	種名				旧流路内の湿地	旧流路内の水面・湿地	旧流路内の湿地(浮葉植物主体)	旧流路内の湿地(抽水植物主体)	モトクロス跡地に自然に形成された種地の湿地	水田	水田	オギを主体とした乾燥した草地	放棄耕作地に成立したセイタカアワダチソウ主体の草地	放棄耕作地に成立したセイタカアワダチソウ主体の草地	人工的な低茎の草地	ハンノキを主体とした河畔林	クヌギ・エノキを主体とした河畔林
カイツブリ	カイツブリ				8	1	3	2	2								
サギ	ゴイサギ					1											
	アオサギ		県DD				2										
カモ	カルガモ					2		11						3			
キジ	コジュケイ				1												
	キジ				1										1		
ハト	キジバト						1						1		2		
カッコー	カッコー				1				1							1	
キツツキ	コゲラ									1						1	1
ヒバリ	ヒバリ							2					2	1	5		
ツバメ	ツバメ				1				1	2	2		5	1			
セキレイ	セグロセキレイ							1									
ヒヨドリ	ヒヨドリ				3								1				2
モズ	モズ				1					1			1				
チメドリ	ガビチョウ			特定													
ウグイス	ウグイス	○	県RT				1		1			1			1		2
	オオヨシキリ							1	4		2	2	1	1	1		
	セッカ					1		1	1	1	1	2	2	1			
シジュウカラ	シジュウカラ					2	2	2		1						2	1
ホオジロ	ホオジロ		県RT			1		1	1		1	1	1	6	2		
ハタオリドリ	スズメ				3			1				3		11	3	2	
ムクドリ	ムクドリ						4			76	4	10	72	23	80		14
カラス	ハシボソガラス						2				1				2		1
	ハシブトガラス						2	3		7	2			1		5	
19科	24種		3種	1種	8種	6種	8種	10種	7種	7種	7種	5種	9種	9種	9種	5種	7種

凡例：水辺、草地、樹林

【重要種凡例】

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)



カイツブリ

4. 太郎右衛門地区全体の調査

●鳥類 (冬季)

- 旧流路内ではサギ類やカモ類などの水辺の鳥類が確認されています。
 - オギやセイタカアワダチソウなどの草地では、タゲリやホオジロなどの草地の鳥類が確認されています。
 - クヌギ・エノキ林やハンノキ林ではミヤマホオジロやシメなどの樹林の鳥類が確認されています。
- ⇒ 全体構想の「目標種」ではベニマシコが広く確認されています。

H25.1の結果

科名	種名	重要種	上池	中池	下池	下池	上池	中池	下池	上池	中池	下池	上池	中池	下池
			旧流路内の湿地	旧流路内の水面・湿地	旧流路内の湿地(浮葉植物主体)	旧流路内の湿地(抽水植物主体)	モトブロス跡地に自然に形成さ	水田	水田	オギを主体とした乾燥した草地	放棄耕作地に成立したセイタカア	放棄耕作地に成立したセイタカア	人工的な低茎の草地	クヌギ・エノキを主体とした河畔林	ハンノキを主体とした河畔林
ウ	カワウ			1											
サギ	ダイサギ			1											
	アオサギ	○		1											
カモ	マガモ			2											
	カルガモ			2											
タカ	ハイタカ	○													1
	ノスリ	○													1
チドリ	タゲリ	○										6			
ハト	キジバト		1		1	1	7	8	1		1	2	1		
キツツキ	アカゲラ				1									1	1
	コゲラ				1		1				1				1
ヒバリ	ヒバリ									1		1			
セキレイ	ビンズイ														1
	タヒバリ									1					
ヒヨドリ	ヒヨドリ		8	1	1	1	2	1	10	1	2			2	2
モズ	モズ				1				1	1					
ミソサザイ	ミソサザイ				1										
ツグミ	ルリビタキ	○													1
	ジョウビタキ							1			1				
	アカハラ								1						1
ツグミ	ツグミ		2	2	2		2		2	1	2	1	1	2	
チメドリ	ガビチョウ				2									2	
ウグイス	ウグイス	○		2	1						1				1
シジュウカラ	シジュウカラ		5		2	2	2	5	5	2	3	15		3	2
メジロ	メジロ		2												
ホオジロ	ホオジロ	○	2			2	2	3		2					
	カシラダカ			2		4	2	3	2		1				2
	ミヤマホオジロ	○													7
	アオジ	○	1	2	1				1		3			1	2
	オオジュリン		2			2	5			1					
アトリ	アトリ											2			
	カララヒワ				3			2	7	3	2	5		3	2
	ベニマシコ	○			2						2				2
	シメ				1	2			1	3		1		2	3
ハタオリドリ	スズメ		3											3	2
ムクドリ	ムクドリ						1								2
カラス	カケス													1	1
	ハシボソガラス			1											
	ハシブトガラス					1	1	1						2	2
22科	39種	10種	9種	11種	12種	8種	8種	9種	8種	13種	9種	13種	4種	14種	17種



【重要種凡例】
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧I類(CR+EN)、絶滅危惧II類(CR)、絶滅危惧I B類(EN)、絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

5. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 上池旧流路整備地 : ①植物

- エキサイゼリが1箇所確認されたほか、カワラニンジンが散見されています。
- 試験掘削範囲は春季には重要種は確認されていません。
- ⇒ 全体構想の「目標種」ではエキサイゼリが確認されています。

H24.5の結果

分類群	科名	種名	学名	目標種	重要種	外来種
シダ植物	トクサ	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>			
離弁花類	ヤナギ	アカメヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>			
		タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>			
		クワ	カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>		
	タデ	オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>			
		イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i>			
		ハルタデ	<i>Persicaria vulgaris</i>			
	ナデシコ	ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>			
		オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>			○
		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>			
	アカザ	ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine var. undulata</i>			
		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>			
		シロサ	<i>Chenopodium album</i>			○
	アブラナ	コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i>			
		セイヨウカラシナ	<i>Brassica juncea</i>			○
		ナズナ	<i>Capsella bursapastoris var. triangularis</i>			
バラ	タチタネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa var. fallax</i>				
	ツノミナズナ	<i>Chorispora tenella</i>			○	
	スカシタゴボウ	<i>Rorippa islandica</i>				
マメ	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>				
	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>			○	
	フウロソウ	<i>Geranium carolinianum</i>			○	
ウリ	ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>				
	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>			特定外来	
	セリ	<i>Apodicarpum ikenoi</i>		○	国NT・県CR	
合弁花類	アカネ	ヤエムグラ	<i>Galium spurium var. echinospermon</i>			
	ムラサキ	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>			
	シソ	キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>			
		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>			
		ナス	クコ	<i>Lycium chinense</i>		
	ゴマノハグサ	ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>			○
		オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>			○
		オオバクサ	<i>Ambrosia trifida</i>			要注意外来
	キク	カワラニンジン	<i>Artemisia apiacea</i>			(旧県EN)
		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>			要注意外来
		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>			
	単子葉植物	アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>			
		ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>			○
		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>			要注意外来
	ツユクサ	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>			
イネ		オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>			
ヨシ		<i>Phragmites australis</i>				
カヤツリグサ	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i>				
	フタイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>				
-	22科	44種	-	1種	2種	13種

H24.8の結果

分類群	科名	種名	学名	目標種	重要種	外来種	
離弁花類	ヤナギ	アカメヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>				
		カワヤナギ	<i>Salix gilgiana</i>				
		タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>				
	クワ	カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>				
		トウグワ	<i>Morus alba</i>			○	
		タデ	オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>			
	アカザ	イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>				
		サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>				
		コアカザ	<i>Chenopodium ficifolium</i>				
	アブラナ	ゴウシュウアリタソウ	<i>Chenopodium pumilio</i>			○	
		ユキノシタ	<i>Rorippa islandica</i>				
		マメ	ツルマメ	<i>Glycine max ssp. soja</i>	○	国NT・県VU	
	合弁花類	ミソハギ	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>			
			ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>			○
			シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>			○
アカバナ		ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i>			○	
ゴマノハグサ		アカバナ	チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i>			
		アカネ	ハクソクズラ	<i>Paederia scandens</i>			
		キク	アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia ssp. major</i>			
単子葉植物		イグサ	トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>			
			オオバクサ	<i>Ambrosia trifida</i>			要注意外来
			カワラニンジン	<i>Artemisia apiacea</i>			(旧県EN)
		イネ	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>			要注意外来
			トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>			
			アメリカカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>			○
		カヤツリグサ	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>			要注意外来
			アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>			
	セイタカアワダチソウ		<i>Solidago altissima</i>			要注意外来	
	イグサ	コゴメイ	<i>Juncus sp.1</i>			○	
		イヌビエ	<i>Echinochloa crusgalli</i>				
		オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>				
	カヤツリグサ	ヨシ	<i>Phragmites australis</i>				
		アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>				
		ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i>				
カヤツリグサ	ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>					
	タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>					
	コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>					
フタイ	カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>					
	シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i>			県VU		
	フタイ	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>					
-	15科	41種	-	1種	3種	11種	

【重要種凡例】
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧Ⅱ類(CR)、絶滅危惧Ⅲ類(EN)、絶滅危惧Ⅳ類(VU)、準絶滅危惧(NT1,NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

※カワラニンジンが埼玉県旧レッドデータブックに記載されている種です。

5. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

1) 上池旧流路整備地 : ②魚類

- コイ、フナ属、モツゴ、ナマズ、ヨシノボリ属は幼魚が確認されています(特にコイは多数)。整備地または隣接地で産卵・ふ化したと推測されます。
 - 要注意外来種のタイリクバラタナゴとカラドジョウが確認されています。
- ⇒ 全体構想の「目標種」ではナマズ・ギンブナが確認されています。(フナ属幼魚にも目標種のギンブナが含まれる可能性があります)

H24.5の結果

目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種	①試験掘削地	②H23掘削範囲
コイ	コイ	コイ				1073	339
		ギンブナ	○			1	
		フナ属				21	
		タイリクバラタナゴ			要注意	1	
		モツゴ				22	3
	ドジョウ	カラドジョウ			要注意	4	
ナマズ	ナマズ	ナマズ	○	県NT2		3	2
スズキ	ハゼ	トウヨシノボリ(偽橙色型)				1	
		ヨシノボリ属				2	
3目	4科	7種	2種	1種	2種	7種	3種

【重要種凡例】

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

その他の確認生物
アマガエル幼生



ニホンアカガエル幼体
(目標種)(県RT)



クサガメ
(県NT2)



ミシシippアカミミガメ
(要注意外来生物)



5. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

2) モトクロス場跡地整備地 : 鳥類

- 水辺の鳥類は確認されていません。
 - 河原で繁殖するコチドリやオギ・ヨシの草地で繁殖するオオヨシキリが確認されています。
 - 草地を利用するヒバリやツバメ、ホオジロ科の種が確認されています。
- ⇒ 全体構想の「目標種」ではベニマシコが確認されています。

科名	種名	目標種	重要種	整備地A		整備地D	
				6月	1月	6月	1月
チドリ	コチドリ			2			
ハト	キジバト				3		
ヒバリ	ヒバリ			1		1	
ツバメ	ツバメ			2		1	
セキレイ	セグロセキレイ					1	
ヒヨドリ	ヒヨドリ			2	1		
モズ	モズ						1
ツグミ	ジョウビタキ						1
	ツグミ				1		1
ウグイス	オオヨシキリ			1		1	
ホオジロ	ホオジロ		県RT	1	3		
	カシラダカ				3		2
	アオジ		県NT1		1		
	オオジュリン				1		
アトリ	カワラヒワ				9		
	ベニマシコ	○	県RT		1		
	シメ				1		
ハタオリドリ	スズメ				3		14
ムクドリ	ムクドリ			6			
カラス	ハシブトガラス				1		1
14科	20種	1種	3種	7種	12種	4種	6種

凡例：水辺、草地、樹林、裸地

【重要種凡例】

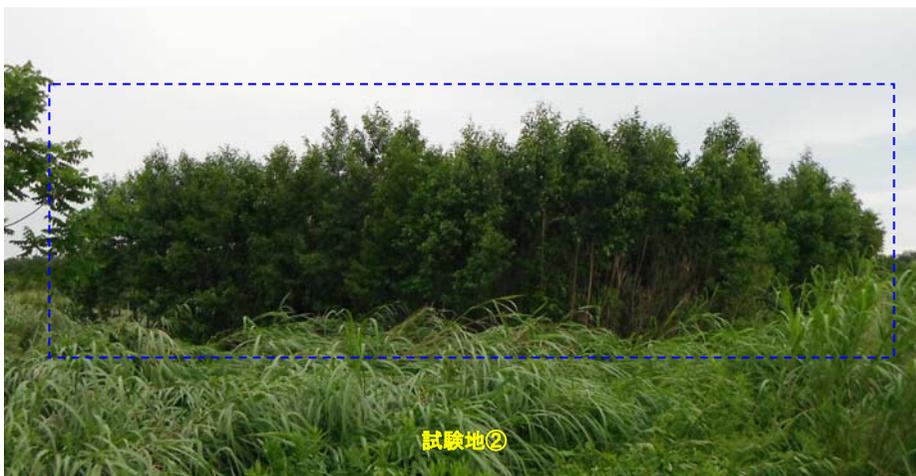
絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

5. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) ハンノキ育成試験地 : ミドリシジミ

●試験地②で3個体が確認されました。

H24.6の結果

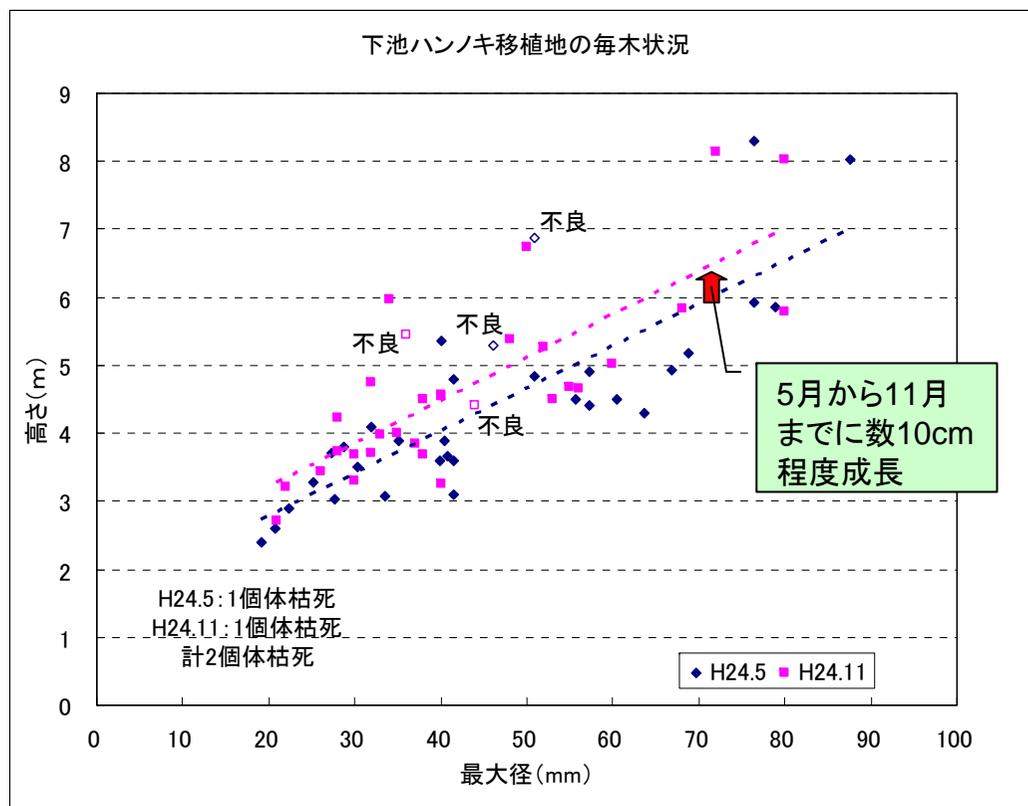


5. 自然再生事業の実施計画に関する調査

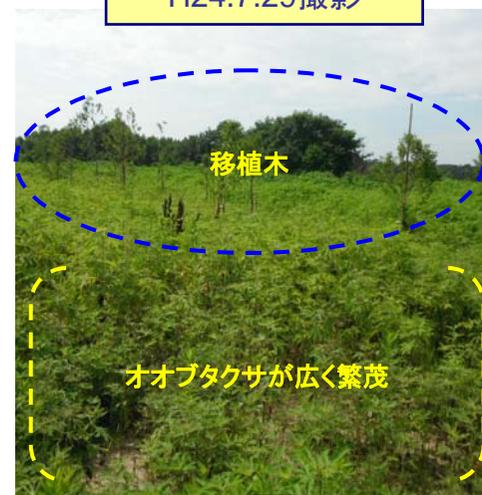
4) 下池ハンノキ移植地

- 移植した33個体のうち、29個体は生育良好で、2個体が不良、2個体が枯死でした。(5月から11月で不良・枯死が各1個体増加)
 - 5月から11月までで全体的に数10cm程度の成長が見られました。
- * 整備地全体にはオオブタクサが繁茂しましたが、8月11日および10月14日のイベントで刈り取りました。

H24.5および11の結果



H24.7.29撮影



H24.10.23撮影

